

2025・10

柏の景気情報

令和7（2025）年10月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和7年10月の調査結果のポイント）

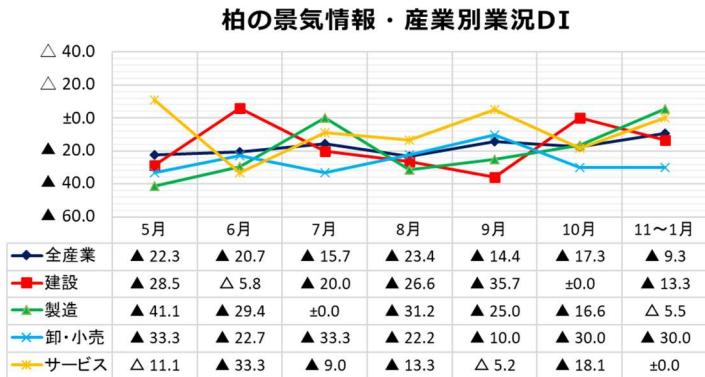
★調査結果のまとめ

回答期間：令和7年10月20日～令和7年11月7日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数75

値上げと賃上げの波に揺れる10月。収益改善を試みるも、コスト上昇のスピードが利益をのみ込む

10月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲17.3（前月水準▲14.4）となりマイナス幅が2.9ポイント拡大した。

各業界、値上げ賃上げと上限を知らない費用の拡大状況に苦慮の声。製造業と卸・小売業では、原材料等の値上げやそれに伴う価格転嫁の要望が継続し、先月に引き続き厳しい状況。サービス業では、改定された人件費の増加に加え、広告宣伝費や手数料などの費用も上昇し、収益悪化の原因となっている。

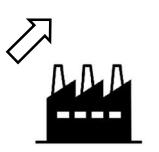


★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「現地調査業務（千葉県以外の業務）の進行においては、クマの出没状況の変化が影響を及ぼしている。今月は年度決算月でもあるので、次年度期の経費コスト面で政局の動向にも引き続き関心を持つて取り組みたい。来年度からの融資申請にも取り組む予定である」（地質調査）「大口取引先が単価を上げてくれた上、一般顧客のお正月前の畳工事受注の増加により、景況が改善」（畳工事請負・畳製造販売）



「ある程度の規模の発注側企業については、全体的なコスト増について理解、対応が出来てきたと思うが、小規模な発注側企業については、まだまだ対応が出来ていない。労務費の増加に対する対応は、規模に係わらず、社内の合理化や生産性向上で対応するのが当然という考え方から脱却出来ておらず、恒常的な人材不足やインフレに対する認識が不足していると思う」（自動車・同附属品製造）「売上は微増ながら原材料等の高止まりで収益率はダウンで厳しい状況。既存の建屋解体や設備投資は必須で先に向けて投資を実施」（その他の鉄鋼業）「世界中がトランプに振り回されている感じで、輸出企業等の不振と先行き不透明感が各社でている」（一般産業用機械・装置製造）



「製造業からの値上要請は止まるところを知らない。お客様は節約志向で衣料と住居余暇は買上点数が極端に落ちている。反対に、食品と消耗品が一点単価上昇により好調であるが、衣料と住居余暇で相殺されている。経費面では、省エネ投資の効果で水光熱費の上昇はコントロールできているが、人件費の高騰は経費を圧迫し続けている」（大型小売）「10月からの原材料の値上げが凄まじく、経営を圧迫している」（洋菓子店）



「10月からまた最低賃金の引き上げが行われたが、学習塾は人件費が販管費のほとんどを占めるため、営業利益に大きなダメージとなっている。最低賃金の引き上げを強いるのであれば、何かを購入するための助成金など間接的な支援ではなく、それに耐えうる直接的な支援を強く望む」（学習塾）「原材料高騰が依然として続いているが、価格転嫁が難しい」（日本料理）「万博終了に伴い国内旅行は減少し、海外旅行は徐々にではあるが回復してきている。しかし、クレジット会社から2026年1月から大幅な手数料改定通知が来ており、旅行取扱手数料も減額になりそうで経営を圧迫しそうだ」（旅行）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲17.3に対し、「CCI-LOBO」が▲18.9で、柏のほうがマイナス幅が1.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
	DI ≥ 50	$50 > DI \geq 25$	$25 > DI \geq 0$	$0 > DI \geq \Delta 25$	$\Delta 25 > DI$
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気					
	▲ 17.3	± 0.0	▲ 16.6	▲ 30.0	▲ 18.1
CCI-LOBO					
	▲ 18.9	▲ 13.5	▲ 21.0	▲ 29.3	▲ 10.0
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気					
	▲ 16.0	20.0	▲ 16.6	▲ 30.0	▲ 27.2
CCI-LOBO					
	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 2.8	▲ 15.1	5.3
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気					
	▲ 21.3	6.6	▲ 33.3	▲ 35.0	▲ 18.1
CCI-LOBO					
	▲ 17.9	▲ 12.2	▲ 16.4	▲ 25.8	▲ 16.8
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気					
	▲ 70.6	▲ 80.0	▲ 66.6	▲ 80.0	▲ 59.0
CCI-LOBO					
	▲ 63.3	▲ 65.5	▲ 56.2	▲ 68.4	▲ 64.5
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気					
	28.0	46.6	27.7	± 0.0	40.9
CCI-LOBO					
	21.0	37.0	11.9	14.3	27.0
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気					
	▲ 9.3	± 0.0	▲ 5.5	▲ 10.0	▲ 18.1
CCI-LOBO					
	▲ 12.8	▲ 6.0	▲ 14.5	▲ 18.1	▲ 11.9

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間: 2025年10月16日~22日

調査対象: 全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、3ヶ月連続で足踏み続く
先行きは、イベント増加への期待から上向き基調

10月の全産業合計の業況DIは、▲18.9と前月比からマイナス0.3ポイントト。

好調な観光需要を背景に、

サービス業では、旅館や観光施設で客数が増加したほか、製造業では、食料品関係で引き合いが増加し、改善した。

一方、建設業では、資材価値の高騰や民間工事の受注不振などから、悪化した。また、小売業では、生活必需品の値上げに伴う節約志向の高まりから、百貨店・総合スーパーとうの売上が減少し、悪化した。

高水準での賃上げや暑さの緩和に伴う外出機会の増加により、消費マインドに持ち直しの兆しが見られていく。一方、仕入価格に加え、一五部地域で今月から最低

賃金が引上げられるなど労務費も高騰しており、業況は3ヶ月連続でほぼ横ばい(前月非プラスマイナス0.9ポイント以内の推移)となつた。

先行き見通しDIは、▲16.9と今月比からプラス2.0ポイント

仕入単価の上昇や、最低賃金見直し等に伴う労務費の増加は継続することが見込まれるほか、今夏の猛暑の影響による生鮮品の価格高騰や、円安の伸長が予想されるなど、先行きのコスト増を不安視する声が聞かれている。

一方、高い水準での賃上げが下支えになる中、今後の行楽シーズンの本格化やイベントの増加に伴い、消費マインドが緩やかに回復することへの期待もあり、先行きは上向き基調が見込まれる。

【建設業】

「資材価格の高騰が止まらない中、民間の新築工事は相変わらず動きが悪い。需要

がないため価格転嫁もでき

ず、利幅が縮小している」(建工事業)

「資材・部材の納入が遅れがちになっている中、技術者が不足や異常気象による作業時間の短縮、残業規制や週休一日制などの働き方改革の影響も重なり、工期が長期化している。工期の長期化により、固定費が増加しているほか、新規案件の受注に対応できなくなっている」(一般工事業)

「当社の仕入先はほぼ海外企業のため、最近の円安伸長の影響で採算が悪化した」(機械器具卸売業)

「農畜産水産物卸売業」

「当社の仕入先はほぼ海外企業のため、最近の円安伸長の影響で採算が悪化した」(機械器具卸売業)

【小売業】

「長引く食料品の値上げに

伴って生活必需品に対する節約志向は強まっているが、最低賃金の上昇など所得増への期待もある中、趣味や娯楽など価値を認めるものには支出を惜しまない傾向が強まっていると感じる」(百貨店)

【サービス業】

「受注は好調である一方、人材・場所等の制約により生産量が抑制されているため、

「夏場の高温・干ばつの影響を強化する」(自動車・付属品製造業)

【卸売業】

「气温が下がり行楽シーズンとなつたことから、客数が増加している。秋から冬にかけて、イベントが続く」ともあって、

影響を受け、秋野菜の生育状況が悪く、品目によっては歴史的高値となっている。生鮮品の価格が大きく値上がりする中、消費者の購買意欲減退も懸念され、価格転嫁が困難となっている」

「材料費や人件費の高騰が続いている。物価高による節約志向の高まりも懸念され、先行きを不安視している」(飲食店)

年末まで宿泊予約が堅調となっている」(旅館)

「材料費や人件費の高騰が続いている。物価高による節約志向の高まりも懸念され、先行きを不安

視している」(飲食店)

「年末まで宿泊予約が堅調となつていて、

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準に比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

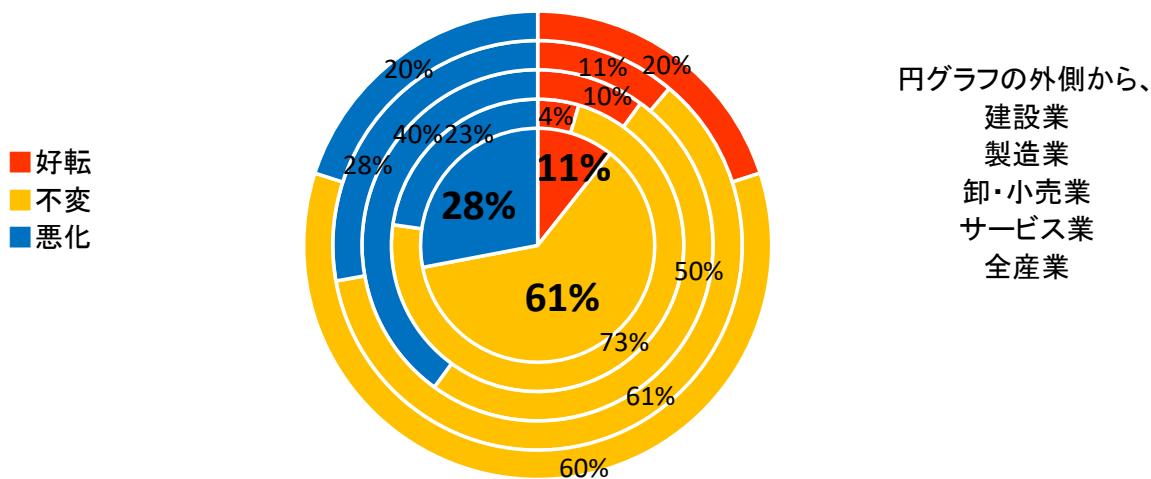
	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲18.0	▲13.8	▲22.3	▲23.7	▲25.2	▲8.5
6月	▲16.8	▲15.2	▲18.6	▲23.5	▲22.4	▲8.5
7月	▲18.9	▲12.3	▲20.0	▲18.7	▲27.1	▲15.8
8月	▲18.8	▲13.4	▲19.7	▲26.6	▲27.0	▲11.6
9月	▲18.6	▲10.2	▲23.9	▲24.8	▲23.6	▲12.3
10月	▲18.9	▲13.5	▲21.0	▲24.2	▲29.3	▲10.0
見通し	▲16.9	▲9.4	▲18.2	▲22.0	▲24.0	▲12.7

令和7年（2025年）10月の動向

【業況について】

- 10月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲17.3（前月水準▲14.4）となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、▲9.3（前月水準△7.2）となり、マイナス幅が1.5ポイント拡大した。

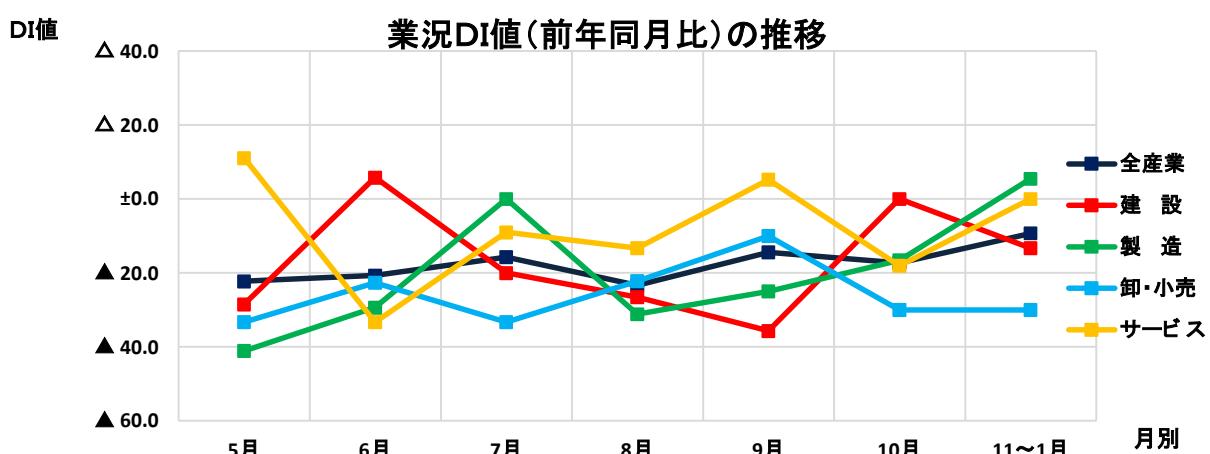
前年同月と比較した今月の業況について



業況DI値（前年同月比）の推移

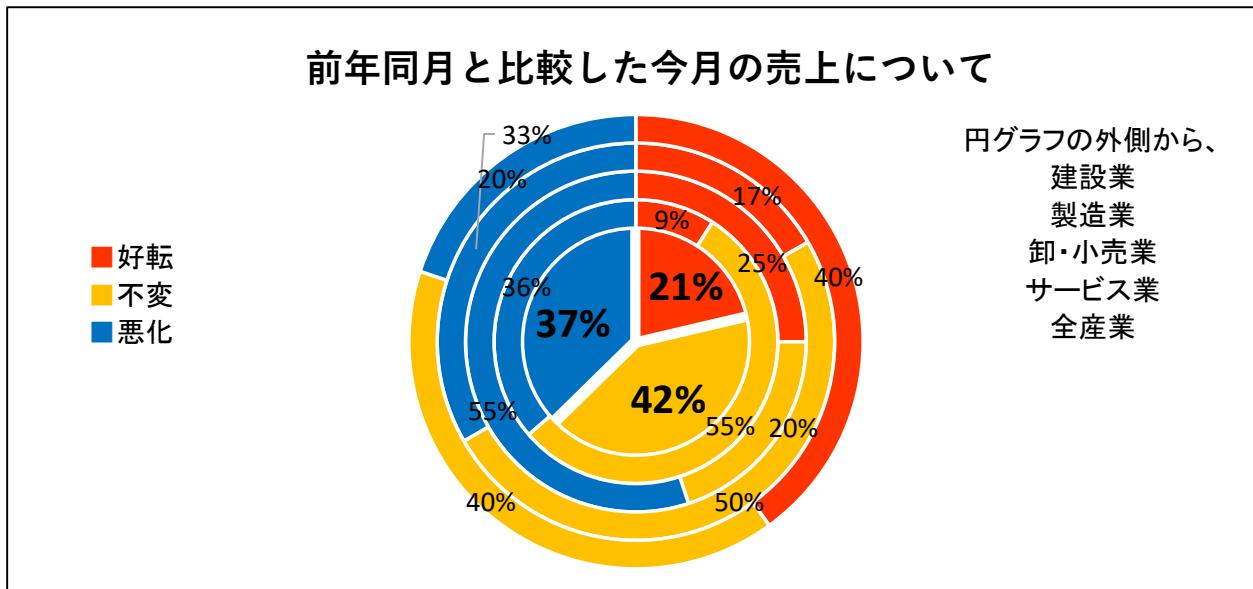
※DI=「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

	令和7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月（10～12月）
全産業	▲22.3	▲20.7	▲15.7	▲23.4	▲14.4	▲17.3	▲9.3（△7.2）
建設	▲28.5	△5.8	▲20.0	▲26.6	▲35.7	±0.0	▲13.3（△28.5）
製造	▲41.1	▲29.4	±0.0	▲31.2	▲25.0	▲16.6	△5.5（△18.7）
卸・小売	▲33.3	▲22.7	▲33.3	▲22.2	▲10.0	▲30.0	▲30.0（▲5.0）
サービス	△11.1	▲33.3	▲9.0	▲13.3	△5.2	▲18.1	±0.0（▲5.2）



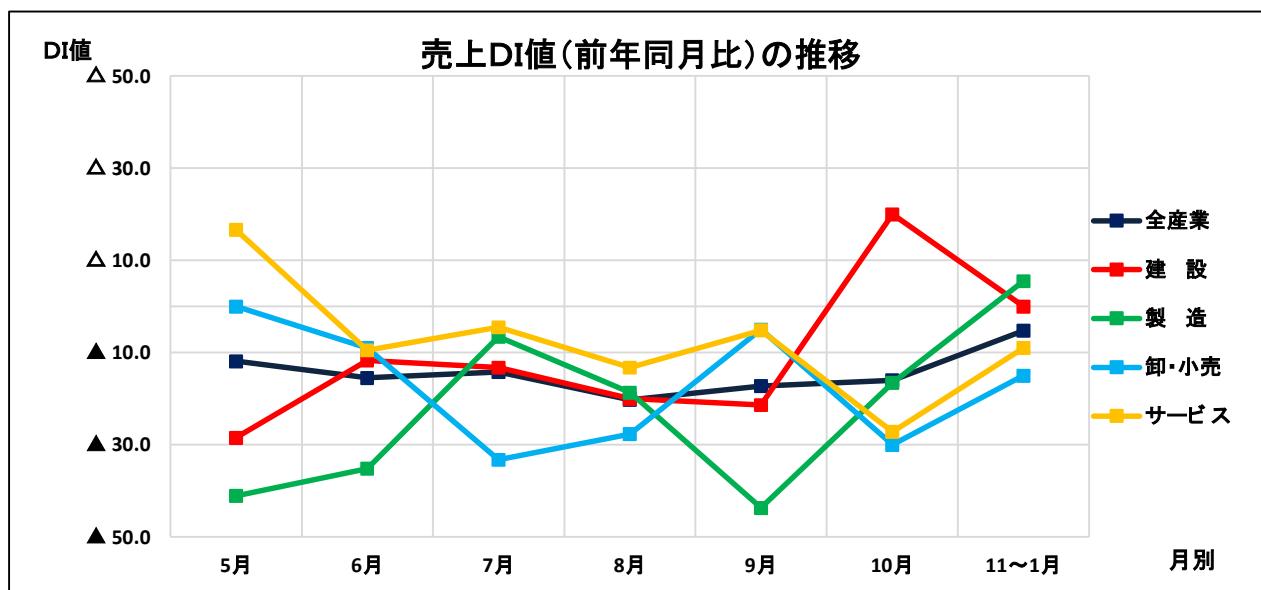
【売上について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅1.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.3(前月水準△10.1)となり、マイナス幅が15.4ポイント拡大した。



売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

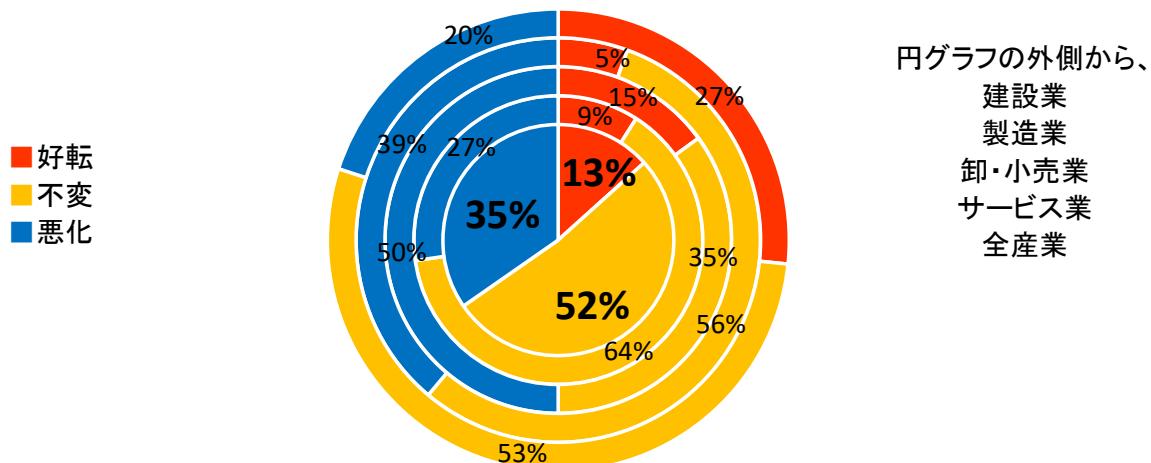
	令和7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月 (10~12月)
全産業	▲11.9	▲15.5	▲14.2	▲20.3	▲17.3	▲16.0	▲5.3 (△10.1)
建設	▲28.5	▲11.7	▲13.3	▲20.0	▲21.4	△20.0	±0.0 (△21.4)
製造	▲41.1	▲35.2	▲6.6	▲18.7	▲43.7	▲16.6	△5.5 (△18.7)
卸・小売	±0.0	▲9.0	▲33.3	▲27.7	▲5.0	▲30.0	▲15.0 (△10.0)
サービス	△16.6	▲9.5	▲4.5	▲13.3	▲5.2	▲27.2	▲9.0 (▲5.2)



【採算について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.3(前月水準▲24.6)となり、マイナス幅が3.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.0(前月水準△0.0)であり、マイナス幅が12.0ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の採算について



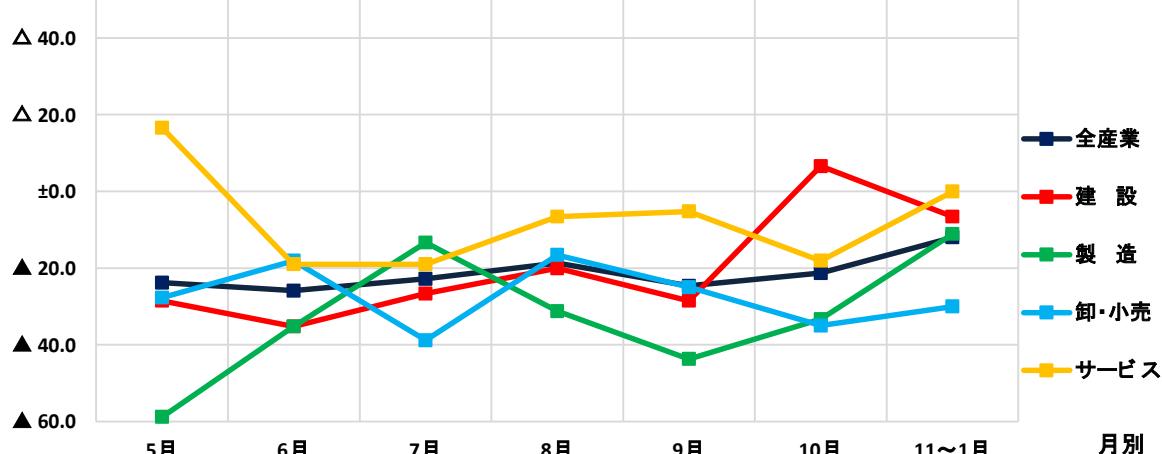
採算DI値(前年同月比)の推移

※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月 (10~12月)
全産業	▲23.8	▲25.9	▲22.8	▲18.7	▲24.6	▲21.3	▲12.0(±0.0)
建設	▲28.5	▲35.2	▲26.6	▲20.0	▲28.5	△6.6	▲6.6(±0.0)
製造	▲58.8	▲35.2	▲13.3	▲31.2	▲43.7	▲33.3	▲11.1(±0.0)
卸・小売	▲27.7	▲18.1	▲38.8	▲16.6	▲25.0	▲35.0	▲30.0(±0.0)
サービス	△16.6	▲19.0	▲19.0	▲6.6	▲5.2	▲18.1	±0.0(±0.0)

DI値

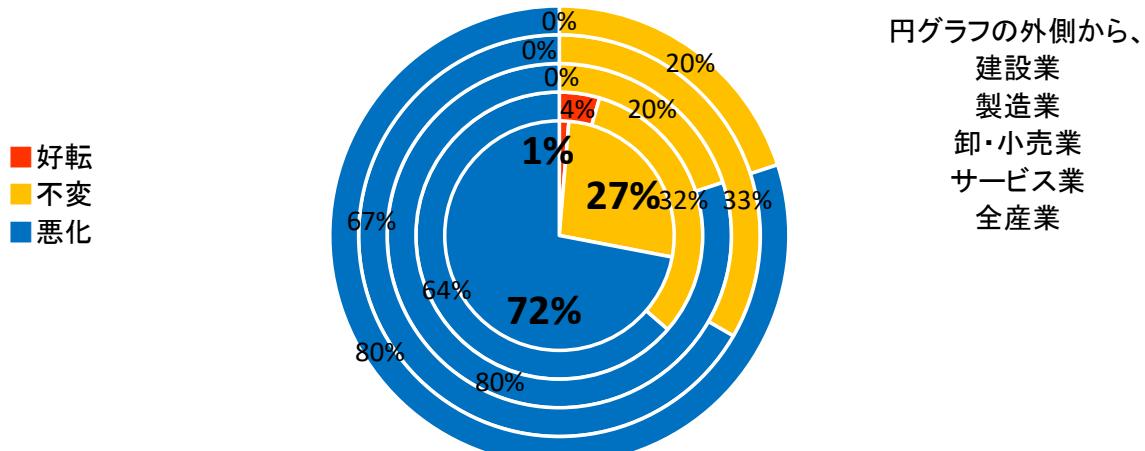
採算DI値(前年同月比)の推移



【仕入単価について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲70.6(前月水準▲66.6)となり、マイナス幅4.0ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲54.6(前月水準▲56.5)となり、マイナス幅が1.9ポイント縮小する見通しである。

前年同月と比較した今月の仕入単価について

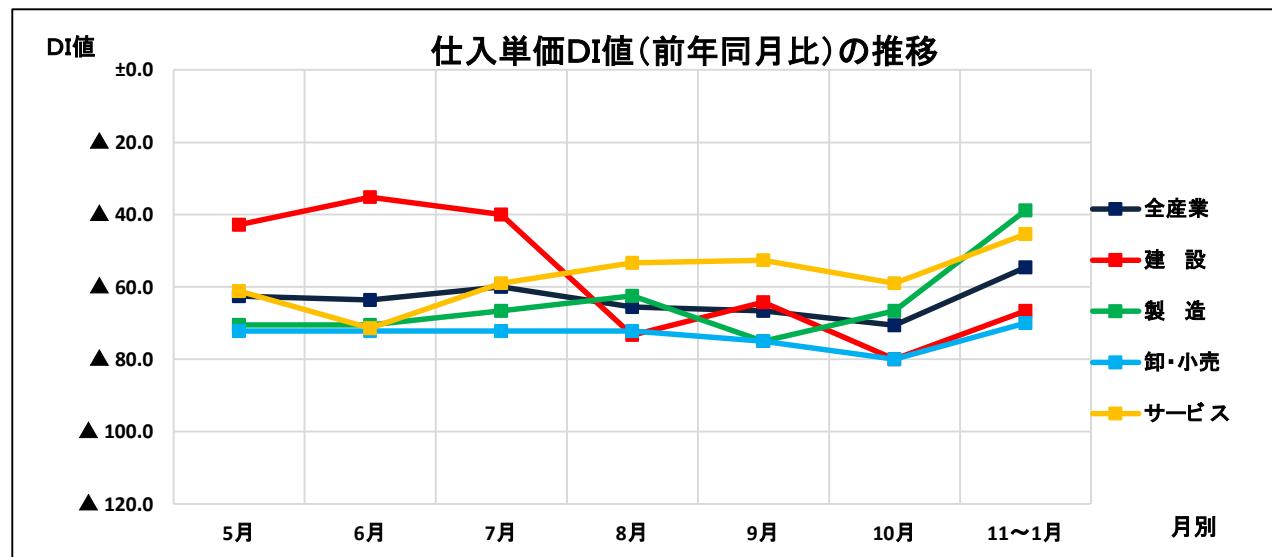


仕入単価DI値(前年同月比)の推移

※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

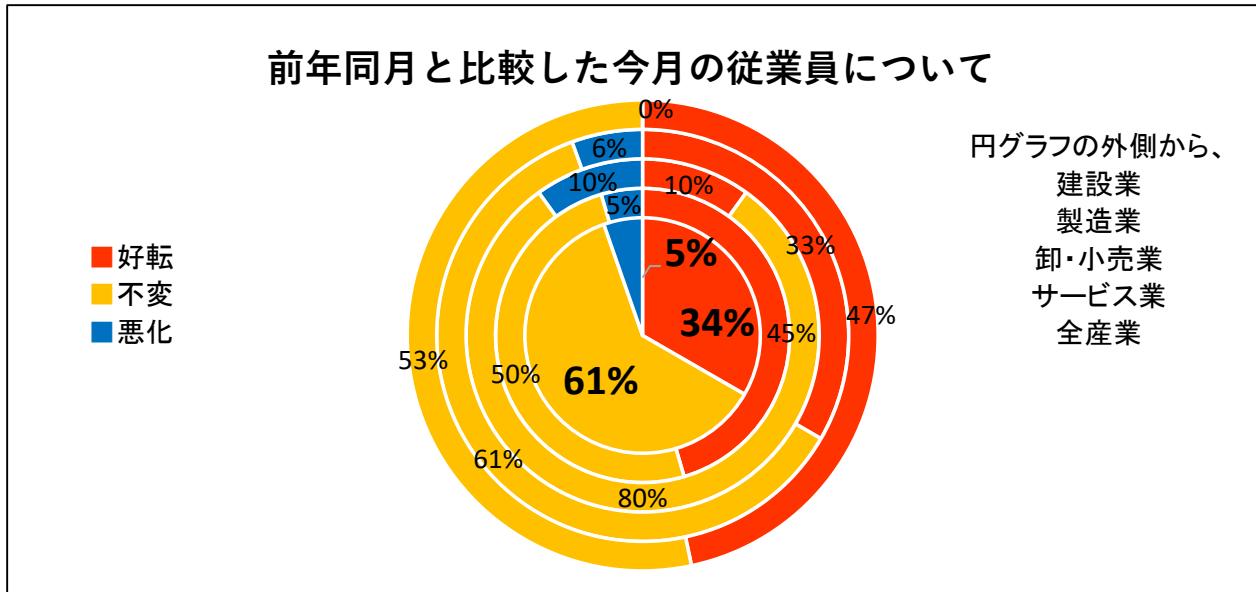
	令和7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月 (10~12月)	先行き見通し
全産業	▲62.6	▲63.6	▲60.0	▲65.6	▲66.6	▲70.6	▲54.6 (▲56.5)	
建設	▲42.8	▲35.2	▲40.0	▲73.3	▲64.2	▲80.0	▲66.6 (▲64.2)	
製造	▲70.5	▲70.5	▲66.6	▲62.5	▲75.0	▲66.6	▲38.8 (▲56.2)	
卸・小売	▲72.2	▲72.2	▲72.2	▲72.2	▲75.0	▲80.0	▲70.0 (▲65.0)	
サービス	▲61.1	▲71.4	▲59.0	▲53.3	▲52.6	▲59.0	▲45.4 (▲42.1)	

仕入単価DI値(前年同月比)の推移



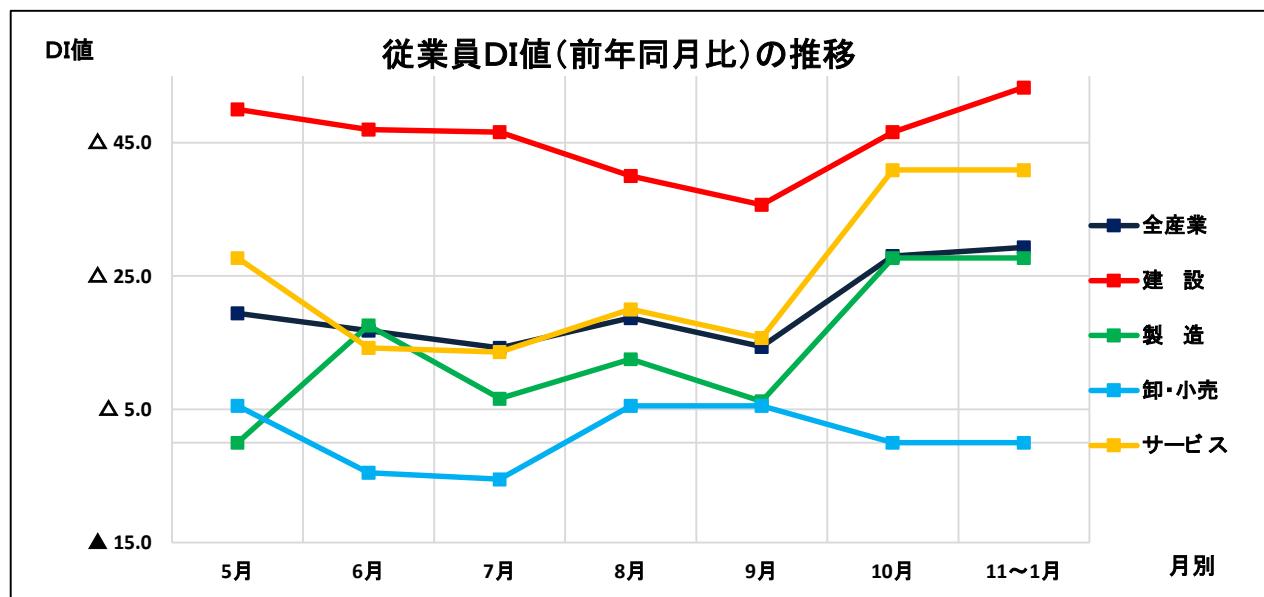
【従業員について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△28.0(前月水準△14.4)となり、プラス幅が13.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△29.3(前月水準△23.1)となり、プラス幅6.2ポイント拡大する見通しである。



従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

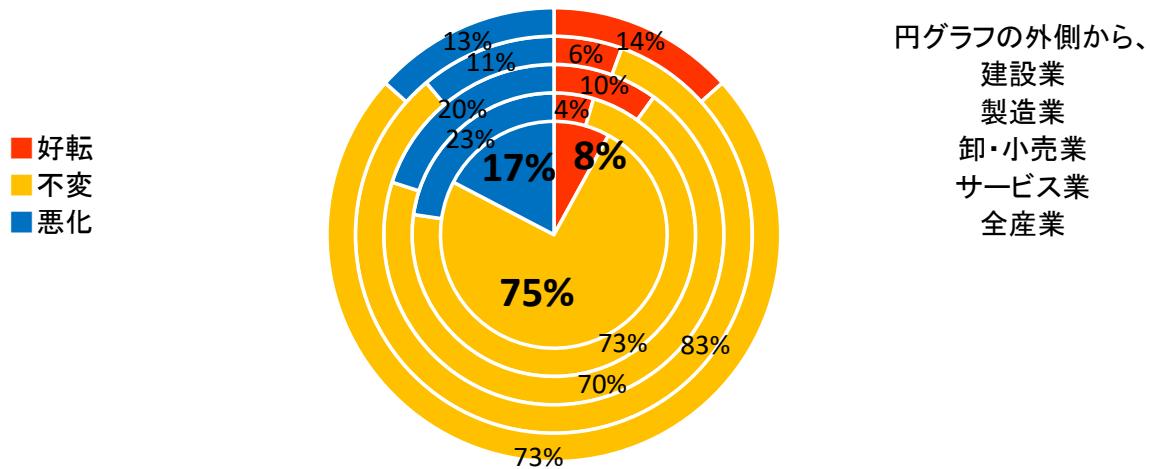
	令和7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月 (10~12月)
全産業	△19.4	△16.8	△14.2	△18.7	△14.4	△28.0	△29.3 (△23.1)
建設	△50.0	△47.0	△46.6	△40.0	△35.7	△46.6	△53.3 (△35.7)
製造	±0.0	△17.6	△6.6	△12.5	△6.2	△27.7	△27.7 (△18.7)
卸・小売	△5.5	▲4.5	▲5.5	△5.5	△5.5	±0.0	±0.0 (△15.0)
サービス	△27.7	△14.2	△13.6	△20.0	△15.7	△40.9	△40.9 (△26.3)



【資金繰りについて】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.3(前月水準▲10.1)となり、マイナス幅が0.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.6(前月水準▲2.8)となり、マイナス幅が7.8ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の資金繰りについて

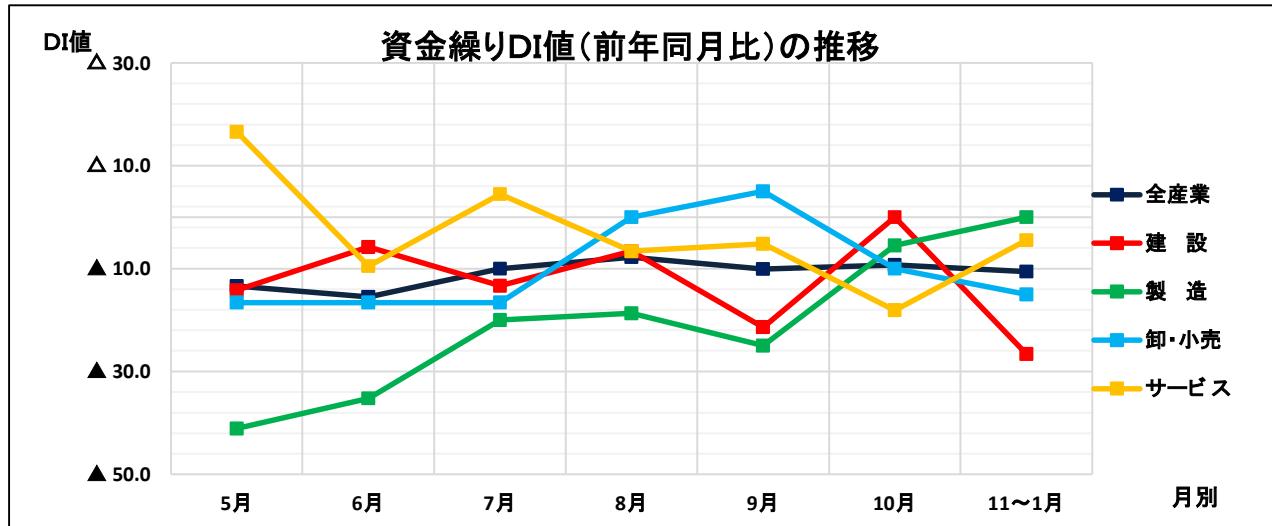


資金繰りDI値(前年同月比)の推移

※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月 (10~12月)	先行き見通し
全産業	▲13.4	▲15.5	▲10.0	▲7.8	▲10.1	▲9.3	▲10.6 (▲2.8)	
建設	▲14.2	▲5.8	▲13.3	▲6.6	▲21.4	±0.0	▲26.6 (±0.0)	
製造	▲41.1	▲35.2	▲20.0	▲18.7	▲25.0	▲5.5	±0.0 (▲6.2)	
卸・小売	▲16.6	▲16.6	▲16.6	±0.0	△5.0	▲10.0	▲15.0 (▲5.0)	
サービス	△16.6	▲9.5	△4.5	▲6.6	▲5.2	▲18.1	▲4.5 (±0.0)	

資金繰りDI値(前年同月比)の推移

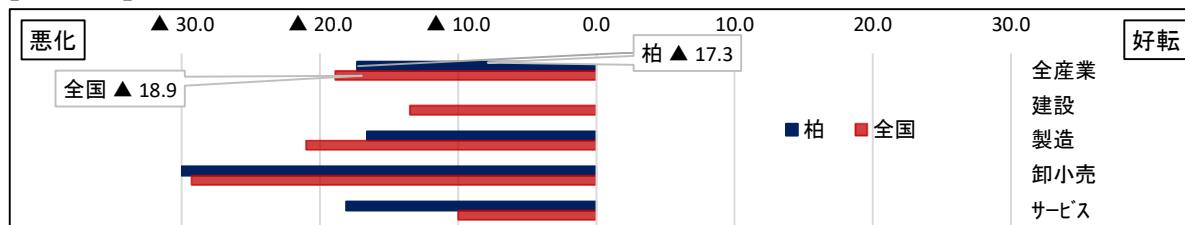


全国 (CCI - LOBO) との比較

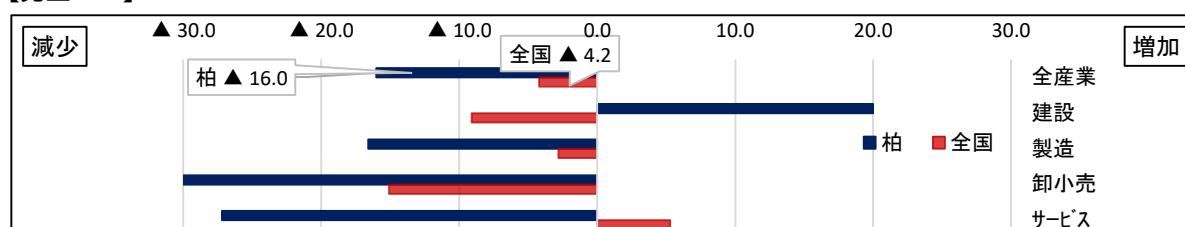
【CCI - LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

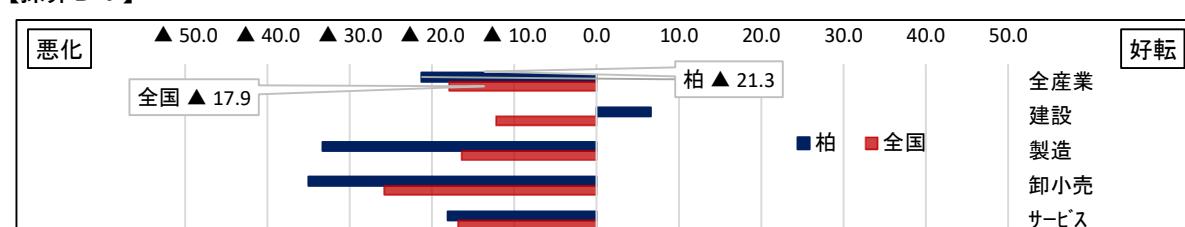
【業況DI】



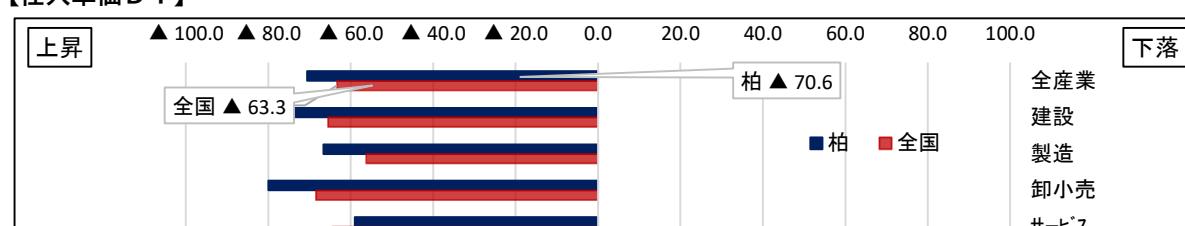
【売上DI】



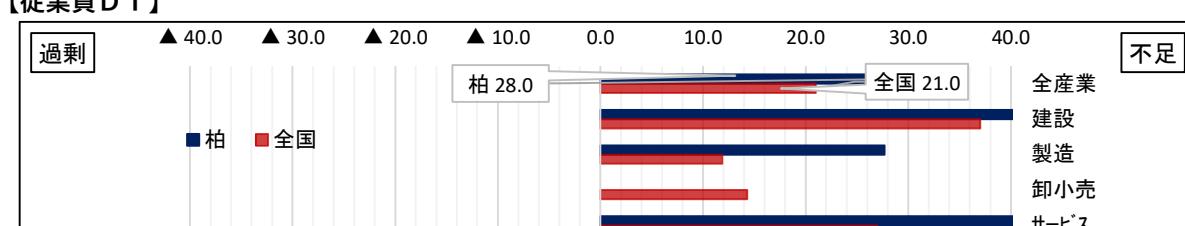
【採算DI】



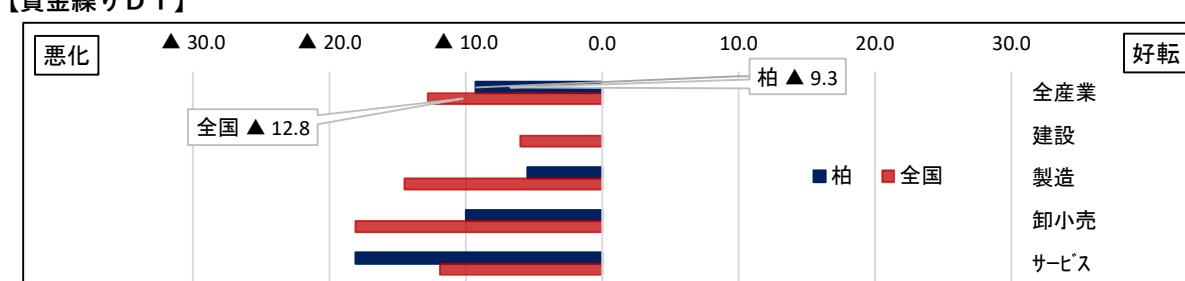
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	<p>大口取引先が単価を上げてくれた上、一般顧客のお正月前の畳工事受注の増加により、景況が改善。</p> <p>・現地調査業務(千葉県以外の業務)の進行においては、クマの出没状況の変化が影響を及ぼしている。 ・今月は年度決算月でもあるので、次年度期の経費コスト面で政局の動向にも引き続き関心を持って取り組みたい。 ・来年度からの融資申請にも取り組む予定である。</p>	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	<p>医療品容器新企画の立ち上げが遅れ、既存の仕事量で生産しているので利益が生まれない。</p> <p>各自治体の中小企業向け補助金の影響が大きく、案件の納期が年度後半に集中する傾向が顕著にでてきてている。</p> <p>売上は微増ながら原材料等の高止まりで収益率はダウンで厳しい状況 既存の建屋解体(木材建屋)や設備投資は必須で先に向けて投資を実施</p> <p>ある程度の規模の発注側企業については、全体的なコスト増について理解、対応が出来てきたと思うが、小規模な発注側企業については、まだまだ対応が出来ていない。労務費の増加に対する対応は、規模に係わらず、社内の合理化や生産性向上で対応するのが当然という考え方から脱皮出来ておらず、恒常的な人材不足やインフレに対する認識が不足していると思う。</p>	プラスチック加工 その他の機械・同部品製造業 その他の鉄鋼業 自動車・同附属品製造業 一般産業用機械・装置製造業
卸・小売業	<p>世界中がトランプにかき回されている感じで、輸出企業等の不振と先行き不透明感が各社でています。</p> <p>弊社は輸出製造業の設備関係の仕事ですので影響は多々あります。トランプ関税はアメリカ国民にとっても負担が大きいのでアメリカの景気も悪くなるのでは考えられます。1部金持ちや企業は良いでしょうが中・低所得層がトランプを支えるのが理解できません。</p> <p>製造業からの値上要請は止まるところを知らない。 一点単価の上昇は、過去3年以上続いており異常事態。 お客様は節約志向で衣料と住居余暇は買上点数が極端に落ちている。 反対に、食品と消耗品が一点単価上昇により好調であるが、衣料と住居余暇で相殺されている。 経費面では、省エネ投資の効果で水光熱費の上昇はコントロールできているが、人件費の高騰は経費を圧迫し続けている。 先行投資として退職者の補充は継続しているが、上半期に比べて応募が極端に減少している。 最低気温が1桁に近づいてきているので、冬物の売込みに期待していきたい。</p> <p>10月からの原材料の値上げが凄まじく 経営を圧迫しています。</p> <p>仕入れ先より値上げの要請。企業努力にも限界。</p> <p>人で不足、思うよう�이人が来ない。</p>	大型小売店 洋菓子店 その他の各種商品小売業 洋菓子店
	<p>改正物流二法の施行に期待。</p> <p>「地域経済が直面している問題点」 柏市がそこを無理して買ったため、本来出るべき補助にお金が回らないことが問題。</p> <p>原材料高騰が依然として続いているが、価格転嫁が難しい</p>	一般貨物自動車運送業 不動産賃貸業 日本料理

【業種別】業界内トピックス

サービス業	今後もインフレ傾向は続くと考え、賃貸での更新時は、値上げをお願いしています。	不動産賃貸・管理業
	万博終了に伴い国内旅行は減少、海外旅行は徐々にではあるが回復してきている、クレジット会社から2026年1月から大幅な手数料改定通知が来ており、旅行手数料も減額になりそうで経営を圧迫しそうだ。 大手は人手不足とコストアップを訴えているが、我々中小企業はもっと辛い、このままだと経営者の給料を下げて対応しなければならない。事態は深刻	旅行
	高齢者による、資産処分や相続相談は、引き続き増えている。低額物件の人気がある。広告費が上がっている。経費の上昇が経営には厳しい。	不動産管理業
	10月からまた最低賃金の引き上げが行われたが、学習塾は人件費が販管費のほとんどを占めるため、営業利益に大きなダメージとなっている。 最低賃金の引き上げを強いるのであれば、何かを購入するための助成金など間接的な支援ではなく、それに耐えうる直接的な支援を強く望む。	学習塾
	設備の更新をしたいが10年前の倍以上の見積額となっており躊躇している。10月に価格改訂を行ったため一部客離れが起きたが大きな影響は無さそうである。	ゴルフ練習場

調査要領

回答期間

令和7年10月20日～令和7年11月7日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	75	43.4%
建設	38	15	39.5%
製造	44	18	40.9%
卸・小売	46	20	43.5%
サービス	45	22	48.9%

調査方法と調査票

 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で
 「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不变	3 減少	1 増加	2 不变	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不变	3 減少	1 増加	2 不变	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不变	3 悪化	1 好転	2 不变	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不变	3 上昇	1 下落	2 不变	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不变	3 悪化	1 好転	2 不变	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不变	3 悪化	1 好転	2 不变	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）**※DI値（景況判断指数）について**

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)$$
※DI値と景気の概況

$DI \geq 50$	$50 > DI \geq 25$	$25 > DI \geq 0$	$0 > DI \geq ▲25$	$▲25 > DI$
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 